

表9 訪問調査における居住の習慣関連項目を用いた比較（女性）

		女性		χ ² 値	p値
		閉じこもり N=27	非閉じこもり N=32		
一日中テレビを見ている日がある	ある	12(44.4%)	10(31.3%)	1.09	0.296
	ない	15(55.6%)	22(68.8%)		
一日中寝室で過ごす日がある	ある	3(11.1%)	2(6.5%)	0.40	0.528
	ない	24(88.9%)	29(93.5%)		
一日中着替えずに過ごす日がある	ある	2(7.4%)	4(12.5%)	0.42	0.519
	ない	25(92.6%)	28(87.5%)		
一日中布団を片付けない日がある	ある	6(35.3%)	6(23.1%)	0.76	0.383
	ない	11(64.7%)	20(76.9%)		
一日中顔を洗わない日がある	ある	1(3.7%)	2(6.3%)	0.20	0.657
	ない	26(96.3%)	30(93.8%)		
履き物を部屋によって履き替える	ある	12(48.0%)	15(51.7%)	0.07	0.785
	ない	13(52.0%)	14(48.3%)		
自分の履き物を玄関に出してある	ある	27(100.0%)	31(96.9%)	0.86	0.354
	ない	0(0.0%)	1(3.1%)		
自分の部屋の戸は開けておく	ある	16(59.3%)	22(71.0%)	0.88	0.349
	ない	11(40.7%)	9(29.0%)		
浴槽に入らずに、シャワーだけで済ませることがある	ある	15(55.6%)	12(37.5%)	1.92	0.165
	ない	12(44.4%)	20(62.5%)		
朝に自分で部屋のカーテンを開ける	ある	24(88.9%)	26(81.3%)	0.66	0.416
	ない	3(11.1%)	6(18.8%)		
夕方に自分で部屋のカーテンを閉める	ある	25(92.6%)	27(84.4%)	0.95	0.331
	ない	2(7.4%)	5(15.6%)		
自分で玄関や窓の戸締まりをする	ある	21(77.8%)	26(81.3%)	0.11	0.741
	ない	6(22.2%)	6(18.8%)		
寝る前に自分で部屋の照明を消す	ある	24(88.9%)	27(84.4%)	0.26	0.614
	ない	3(11.1%)	5(15.6%)		
寝る前に自分でテレビを消す	ある	23(88.5%)	30(93.8%)	0.51	0.475
	ない	3(11.5%)	2(6.3%)		
自分の部屋の片づけを自分でする	ある	25(92.6%)	27(84.4%)	0.95	0.331
	ない	2(7.4%)	5(15.6%)		
自分の部屋の掃除を自分でする	ある	23(85.2%)	27(84.4%)	0.01	0.931
	ない	4(14.8%)	5(15.6%)		
自分の部屋のゴミ箱に溜まったゴミを自分で捨てる	ある	24(88.9%)	29(90.6%)	0.05	0.826
	ない	3(11.1%)	3(9.4%)		
ゴミの分別を自分で行う	ある	26(96.3%)	31(96.9%)	0.02	0.903
	ない	1(3.7%)	1(3.1%)		
飲み物の用意を自分でする	ある	25(92.6%)	31(100.0%)	2.38	0.123
	ない	2(7.4%)	0(0.0%)		
電球の交換を自分でする	ある	9(33.3%)	8(25.0%)	0.50	0.481
	ない	18(66.7%)	24(75.0%)		
履き物は自分で下足入れに片付ける	ある	14(51.9%)	17(53.1%)	0.01	0.922
	ない	13(48.1%)	15(46.9%)		
屋外の植木や植物の水やりを自分でする	ある	16(61.5%)	22(71.0%)	0.57	0.452
	ない	10(38.5%)	9(29.0%)		
自分の部屋の暖房器具を自分で片付ける	ある	17(70.8%)	17(68.0%)	0.05	0.830
	ない	7(29.2%)	8(32.0%)		
自分の部屋の扇風機を自分で片付ける	ある	18(81.8%)	16(66.7%)	1.37	0.242
	ない	4(18.2%)	8(33.3%)		
自分の部屋の大掃除を自分でする	ある	7(25.9%)	23(71.9%)	12.37	0.000
	ない	20(74.1%)	9(28.1%)		
季節ごとに、自分の部屋の模様替えを自分でする	ある	10(37.0%)	17(53.1%)	1.53	0.217
	ない	17(63.0%)	15(46.9%)		

表10 訪問調査における居住の習慣関連項目を用いた比較（男性）-その2

		男性		χ ² 値	p値
		閉じこもり N=42	非閉じこもり N=41		
自分の部屋にはテレビがある	はい	34(81.0%)	30(73.2%)	0.71	0.399
	いいえ	8(19.0%)	11(26.8%)		
自分の部屋にはものが多い	はい	19(45.2%)	21(51.2%)	0.30	0.586
	いいえ	23(54.8%)	20(48.8%)		
自分の部屋は散らかっている	はい	11(26.2%)	15(36.6%)	1.04	0.307
	いいえ	31(73.8%)	26(63.4%)		

表11 訪問調査における居住の習慣関連項目を用いた比較（女性）-その2

		女性		χ ² 値	p値
		閉じこもり N=27	非閉じこもり N=32		
自分の部屋にはテレビがある	はい	21(77.8%)	24(75.0%)	0.06	0.803
	いいえ	6(22.2%)	8(25.0%)		
自分の部屋にはものが多い	はい	10(37.0%)	16(50.0%)	1.00	0.318
	いいえ	17(63.0%)	16(50.0%)		
自分の部屋は散らかっている	はい	5(18.5%)	10(31.3%)	1.25	0.263
	いいえ	22(81.5%)	22(68.8%)		

表12 訪問調査における周辺環境に関する項目

カテゴリー		男性		女性	
		閉じこもり N=42	非閉じこもり N=41	閉じこもり N=27	非閉じこもり N=32
自宅から公共交通機関までの距離	近い	29(69.0%)	30(73.2%)	13(48.1%)	23(71.9%)
	やや近い	10(23.8%)	6(14.6%)	9(33.3%)	7(21.9%)
	やや遠い	2(4.8%)	5(12.2%)	4(14.8%)	1(3.1%)
	遠い	1(2.4%)	0(0.0%)	1(3.7%)	1(3.1%)
自宅から日常的な買い物の店までの距離	近い	31(73.8%)	30(73.2%)	16(59.3%)	20(62.5%)
	やや近い	9(21.4%)	7(17.1%)	7(25.9%)	4(12.5%)
	やや遠い	2(4.8%)	2(4.9%)	2(7.4%)	6(18.8%)
	遠い	0(0.0%)	1(2.4%)	2(7.4%)	2(6.3%)
自宅から病院までの距離	近い	18(42.9%)	25(67.6%)	11(40.7%)	20(62.5%)
	やや近い	14(33.3%)	8(21.6%)	7(25.9%)	5(15.6%)
	やや遠い	7(16.7%)	2(5.4%)	2(7.4%)	6(18.8%)
	遠い	3(7.1%)	2(5.4%)	7(25.9%)	1(3.1%)
自宅周辺の道路や歩道の段差	多い	9(21.4%)	5(12.2%)	3(11.5%)	7(21.9%)
	やや多い	2(4.8%)	3(7.3%)	6(23.1%)	4(12.5%)
	やや少ない	10(23.8%)	6(14.6%)	9(34.6%)	5(15.6%)
	少ない	21(50.0%)	25(61.0%)	8(30.8%)	14(43.8%)
自宅周辺の自動車の往来	多い	22(52.4%)	21(52.5%)	13(48.1%)	15(46.9%)
	やや多い	8(19.0%)	3(7.5%)	5(18.5%)	2(6.3%)
	やや少ない	6(14.3%)	5(12.5%)	5(18.5%)	9(28.1%)
	少ない	6(14.3%)	11(27.5%)	4(14.8%)	6(18.8%)
自宅周辺で自転車や自動車に衝突する危険	感じる	15(35.7%)	13(31.7%)	11(40.7%)	14(43.8%)
	時々感じる	12(28.6%)	13(31.7%)	10(37.0%)	6(18.8%)
	あまり感じない	5(11.9%)	2(4.9%)	2(7.4%)	4(12.5%)
	感じない	10(23.8%)	13(31.7%)	4(14.8%)	8(25.0%)

表13 周辺環境関連項目を用いた比較（男性）

	カテゴリー	男性		χ ² 値	p値
		閉じこもり N=42	非閉じこもり N=41		
自宅から公共交通機関までの距離	近い	29(69.0%)	30(73.2%)	0.17	0.679
	遠い	13(31.0%)	11(26.8%)		
自宅から日常的な買い物の店までの距離	近い	31(73.8%)	30(75.0%)	0.02	0.902
	遠い	11(26.2%)	10(25.0%)		
自宅から病院までの距離	近い	18(42.9%)	25(67.6%)	4.84	0.028
	遠い	24(57.1%)	12(32.4%)		
自宅周辺の道路や歩道の段差	多い	21(50.0%)	14(35.9%)	1.64	0.200
	少ない	21(50.0%)	25(64.1%)		
自宅周辺の自動車の往来	多い	22(52.4%)	21(52.5%)	0.00	0.991
	少ない	20(47.6%)	19(47.5%)		
自宅周辺で自転車や自動車に衝突する危険	感じる	27(64.3%)	26(63.4%)	0.01	0.934
	感じない	15(35.7%)	15(36.6%)		

表14 周辺環境関連項目を用いた比較（女性）

	カテゴリー	女性		χ ² 値	p値
		閉じこもり N=27	非閉じこもり N=32		
自宅から公共交通機関までの距離	近い	13(48.1%)	23(71.9%)	3.47	0.063
	遠い	14(51.9%)	9(28.1%)		
自宅から日常的な買い物の店までの距離	近い	16(59.3%)	20(62.5%)	0.065	0.799
	遠い	11(40.7%)	12(37.5%)		
自宅から病院までの距離	近い	11(40.7%)	20(62.5%)	2.78	0.095
	遠い	16(59.3%)	12(37.5%)		
自宅周辺の道路や歩道の段差	多い	18(69.2%)	16(53.3%)	1.48	0.224
	少ない	8(30.8%)	14(46.7%)		
自宅周辺の自動車の往来	多い	18(66.7%)	17(53.1%)	1.11	0.291
	少ない	9(33.3%)	15(46.9%)		
自宅周辺で自転車や自動車に衝突する危険	感じる	21(77.8%)	20(62.5%)	1.61	0.204
	感じない	6(22.2%)	12(37.5%)		

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

「閉じこもり」と認知機能低下との関連に関する研究

分担研究者 繁田雅弘 首都大学東京健康福祉学部教授

研究要旨 東京荒川区在住の65歳以上高齢者39,405名から1万人を単純無作為法により抽出して実施したアンケート調査の結果から、外出頻度（週1回以上の外出）によって閉じこもり高齢者と非閉じこもり高齢者に分類した。その中から訪問調査を承諾した閉じこもり高齢者95名と、閉じこもり高齢者に性と年および生活体力得点をマッチングさせた非閉じこもり高齢者95名を対象として、改訂長谷川式簡易知能評価スケールを実施した。その結果、認知機能全般の低下や近時記憶の低下については、閉じこもりの有無とは有意な関連が見出せなかった。しかし見当識の低下と閉じこもりの有無との間には有意な関連が見出された。閉じこもりを呈する高齢者には見当識の低下している者が有意に多く認められた。今後は認知症の有無と閉じこもりとの関連をさらに検討する必要があると考えられた。

A. 研究目的

高齢者における「閉じこもり」、すなわち外出しなくなる、あるいはその頻度が一定程度に低下する状態には、心理的要因、社会的要因、環境要因など様々の要因が関連する。一方、認知症をきたす疾患では、記憶障害をはじめとして、場所や時間における見当識障害や視空間失認などが認められ、それらは外出に様々の支障をきたすことが知られている。また認知症疾患では、上記の症候以外にも意欲の低下や自発性の低下をきたすことから、こうした症状も外出を妨げる要因となるものと推測される。したがって、高齢者が何らかの認知障害をきたす疾患を罹患している場合には、そのために「閉じこもり」を生ずる可能性があるわけである。そこで今回は、認知機能低下と「閉じこもり」なんらかの関連があるか否か、あるとすればどういった脳機能の領域低下ないしは障害であるかを検討するため、認知機能検査の成績と「閉じこもり」との関連を検討した。

B. 研究方法

まず2006年6月1日時点で、住民基本台帳に記載された東京都荒川区の65歳以上高齢者39,405名から、1万人を単純無作為法により抽出し、郵送法によるアンケート調査「荒川区の住民の健康に関するアンケート・2006年」を実施した。調査期間は2006年7月5日から7

月20日であった。回収数は4538票（回収率45.3%）であった。回収した4538票から、212票（入院中：74票，入所中：45票，長期不在：12票，転出：7票，死亡：5票，その他（拒否，認知症など）：69票），および性別，年齢，外出頻度のいずれかの項目が未記入であったもの：462票を無効票（合計674）として除いた。その結果，有効回答数は3864票（男性1697票，女性2167票，平均年齢69.9±5.1歳，中央値69.0歳），有効回答率（有効回答数／回収数）は85.1%であった。続いて閉じこもりの特徴を分析するため，有効回答から要介護者および介護認定の有無について未記入であった対象者を除いた。介護認定を受け，要支援，要介護のいずれかの判定を受けていた対象者は247名であった。介護度の内訳は，「要支援」48名，「要介護1」81名，「要介護2」42名，「要介護3」19名，「要介護4」17名，「要介護5」12名，および，要介護認定を受けているが介護度に関する回答が不明の28名であった。また，介護認定の有無が未記入であった対象者は25名であった。これら計272名を除いた3592名を，外出頻度（週1回以上の外出）によって，閉じこもりと非閉じこもりに分類した。その結果，閉じこもり289名（8.0%），非閉じこもり3303名（92.0%）となった。続いて閉じこもり（週1回以下の外出頻度）に該当した289名のうち，訪問による調査が可能であると回答したのは60名，電話連絡によ

り事前の訪問相談が可能であると回答したのは60名であった。電話連絡による要相談の60名に対して、事前の電話連絡により調査協力の依頼を行った。その際、一度拒否された場合は再度依頼を行い、2回目の依頼に対して拒否された場合を事前拒否として候補者から除外し、最終的に35名が訪問調査可能となった。郵送調査において訪問による調査が可能であると回答した60名と加えて、最終的な閉じこもりの訪問対象者は95名（男性57名、女性38名、平均年齢70.16±4.92、中央値69.0歳）となった。

非閉じこもり（週1回以上の外出頻度）に該当した3303名のうち、訪問による調査が可能であると回答した780名を訪問対象者候補とした。これら非閉じこもりの訪問対象者候補から、閉じこもりの訪問対象者の各人に対して、性別と年齢（±2歳）および生活体力得点（移動性に関する6項目）により非閉じこもりをマッチングさせた。その際、生活体力得点は分布を考慮し4点をカットオフポイントとして2群のカテゴリーに分け、該当する非閉じこもり群をリストアップし、一人一人を対応させた。また、非閉じこもりの訪問対象者候補が複数いる場合には、無作為に選出した。その結果、非閉じこもり訪問対象者は95名（男性57名、女性38名、平均年齢70.26±4.73、中央値69.0歳）であった。

以上の閉じこもりと非閉じこもりの対象者に対する訪問調査において、改訂長谷川式簡易知能評価スケール（加藤ほか 1991）を原法にしたがって実施した。調査方法の詳細は、別添のマニュアルに示した。

結果の解析方法は、まず改訂長谷川式簡易知能評価スケールを実施できた人と拒否した人について、閉じこもりの有無との関連を検討した。続いて、改訂長谷川式簡易知能評価スケールの成績と閉じこもり・非閉じこもりとの関連について検討した。すなわち、改訂長谷川式簡易知能評価スケールの合計得点についてカットオフポイントを用いて認知機能の低下が疑われる群と疑いのない群に分け、閉じこもり・非閉じこもりとの関連を検討した。続いて、改訂長谷川式簡易知能評価スケールの各設問の正誤と、閉じこもり・非閉じこもりとの関連を検討した。統計学的検定には分割表の検定を用いた。

なお、倫理面への配慮としては、認知機能検査である改訂長谷川式簡易知能評価スケールの施行に当たって、訪問調査を承諾している対象者の場合であっても、この検査に参加するか否かあらためて本人に確認することとした。その際に、無理をせず途中で中止することも可能であること、などを本人に説明し了解を得た上で行うこととした。

C. 研究結果

1. 改訂長谷川式簡易知能評価スケールの実施または拒否と閉じこもりの有無との関連

改訂長谷川式簡易知能評価スケールを実施できた人と拒否した人について、閉じこもりの有無との関連を検討した。その結果、実施・未実施と閉じこもりの有無については有意な関連は指摘できなかった。

表：改訂長谷川式簡易知能評価スケールとの関連

	非閉じこもり	閉じこもり	計
実施	68	58	126
未実施	5	11	16
計	73	69	142

2. 改訂長谷川式簡易知能評価スケールの得点と閉じこもりの有無との関連

従来 of 調査研究の中では、最も低いと思われるカットオフポイント：19点/20点（Nakamura et al. 2003）に設定した場合について検討した。その結果、認知症の疑いの有無と閉じこもりの有無については有意な関連は指摘できなかった。

表：改訂長谷川式簡易知能評価スケールとの関連（カットオフポイント：19/20）

	非閉じこもり	閉じこもり	計
19点以下	1	0	1
20点以上	67	58	125
計	68	58	126

続いて、従来 of 疫学調査等で比較的広く用い

られているカットオフポイント：20点/21点(加藤ほか 1991)に設定した場合について検討した。しかし、その結果でも、認知症の疑いの有無と閉じこもりの有無については有意な関連は指摘できなかつた。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケールとの関連 (カットオフポイント：20/21)

	非閉じこもり	閉じこもり	計
20点以下	2	1	3
21点以上	66	57	123
計	68	58	126

続いて、従来の調査研究で用いられているカットオフポイントの中から、比較的高い23点/24点に設定した場合について検討した。しかし、その結果でも、認知症の疑いの有無と閉じこもりの有無については有意な関連は指摘できなかつた。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケールとの関連 (カットオフポイント：23/24)

	非閉じこもり	閉じこもり	計
23点以下	5	6	11
24点以上	63	52	115
計	68	58	126

続いて、従来の調査研究で用いられたカットオフポイントの中から、最も高い27点/28点に設定した場合について検討した。しかし、その結果でも、認知症の疑いの有無と閉じこもりの有無については有意な関連は指摘できなかつた。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケールとの関連 (カットオフポイント：27/28)

	非閉じこもり	閉じこもり	計
27点以下	22	27	49
28点以上	46	31	77
計	68	58	126

3. 改定長谷川式簡易知能評価スケールの特定項目と閉じこもりの有無

改定長谷川式簡易知能評価スケールにおける、日付の問題の正誤と閉じこもりの有無について検討した。その結果、閉じこもり群では、日付を誤って答えた者が有意に多かつた。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケール“今日の日付”の正誤との関連

今日の日付	非閉じこもり	閉じこもり	計
誤答	1	9	10
正答	67	51	118
計	68	58	126

(改定長谷川式簡易知能評価スケール“今日の日付”を誤答した者は、非閉じこもり群に比べて、閉じこもり群に有意に頻度が高かつた、 $P=.0119$, Yates補正)。

続いて、改定長谷川式簡易知能評価スケールにおける曜日の問題の正誤と閉じこもりの有無について検討した。その結果、閉じこもり群では、曜日を誤って答えた者が有意に多かつた。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケール“今日の曜日”の正誤との関連

今日の曜日	非閉じこもり	閉じこもり	計
誤答	1	7	8
正答	67	52	119
計	68	58	126

(改定長谷川式簡易知能評価スケール“今日の曜日”を誤答した者は、非閉じこもり群に比べて、閉じこもり群に有意に頻度が高かつた、 $P=.0412$, Yates補正)。

改定長谷川式簡易知能評価スケールにおける遅延再生のテストについて、満点とそれ以外に分けて検討したが、記憶の低下と閉じこもりの有無の間には有意な関連を見出せなかつた。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケール
遅延再生の正誤との関連

	非閉じこ もり	閉じこも り	計
5点以下	34	32	66
6点(満点)	34	27	61
計	68	58	126

続いて、5点以上と4点以下に分けて検討したが、やはり記憶の低下と閉じこもりの有無との間には有意な関連を見出せなかった。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケール
遅延再生の正誤との関連

	非閉じこ もり	閉じこも り	計
4点以下	18	19	66
5点以上	50	40	61
計	68	58	126

さらに、4点以上と3点以下に分けて検討したが、ここでも、記憶の低下と閉じこもりの有無との間には有意な関連を見出せなかった。

表：改定長谷川式簡易知能評価スケール
遅延再生の正誤との関連

	非閉じこ もり	閉じこも り	計
3点以下	9	11	66
4点以上	59	49	61
計	68	58	126

D. 考察

認知症をもつ高齢者は、様々の心理症状(IPA 2003a)や行動症候(IPA 2003b)のために外出する目的を失ったり、外出しようと思っても、実行機能障害や失行や失認などの症状から交通機関の利用に支障が生じたり、道に迷うなどするため、結果的に外出が減るものと推測される。したがって閉じこもりを呈している高齢者の中には何らかの認知障害をもつ高齢者が含まれている可能性がある。

今回施行した長谷川式簡易知能評価スケール

ルのデータから、認知障害(認知症)と閉じこもりが関係しているか否か検討した。このスケールは、認知症のスクリーニングのためのツールであり、その得点が認知症の診断に直結するわけではないが、認知障害の有無やその程度を一定程度反映しているものと考えられる。したがって調査や研究の内容によって様々な用いられているカットオフポイントを使って、認知障害の疑いのある人とない人に分けて閉じこもりの有無と関連を検討した。まず、改定長谷川式簡易知能評価スケールを実施できた人と拒否した人について、閉じこもりの有無との関連を検討した。拒否した人の中には認知機能障害をきたしている人がより多く含まれると推測されたからである。しかし、その結果から、上記テストを実施または拒否と、閉じこもりの有無については有意な関連は指摘できなかった。さらに、従来の研究で様々な設定されてきたカットオフポイントを用い、認知症の疑いの有無と閉じこもりの有無について検討したが、合計得点と認知症との疑いとの間には一定の関連を見出せなかった。

一方、認知症の軽度の段階から認められる症状として見当識障害や記憶障害を挙げることができる。見当識障害については、季節や月については比較的進行した段階で障害されるものの、軽度の段階では保たれていることが多い。そしてごく初期の段階からや障害されるとされている症状は、日付や曜日に対する見当識の障害である。まず日付の問題の正誤と閉じこもりの有無について検討した。その結果、閉じこもり群では、日付を誤って答えた者が有意に多かった。続いて、曜日の問題の正誤と閉じこもりの有無について検討した。その結果、閉じこもり群では、曜日を誤って答えた者が有意に多かった。

また記憶機能に関しては、近接記憶ないし近時記憶と呼ばれる記憶に、認知症の初期の段階から障害を認めることが多い(繁田 2004, Horstl 2005)。これは、単語や物品を一旦記憶し一定時間経た後に再生させるという遅延再生というテストによって調べることができる。そこで改定長谷川式簡易知能評価スケールの遅延再生の結果と閉じこもりの有無との関連について検討した。その結果、いくつかのカットオフポイントを設定して閉じこも

りの有無との関連を検討したが有意な関連を見出せなかった。

以上をまとめると、認知機能全般と閉じこもりの有無との間には有意な関連を見出せず、また初期症状とも関連する近時記憶の低下と閉じこもりとの間にも有意な関連は見出せなかった。しかしながら、見当識障害と閉じこもりとの間には有意な関連が認められた。すなわち、閉じこもり群には、見当識能力が低下している者がより高頻度に含まれていた。しかしながら、今回の結果からは認知症が存在すると言い切れるほど明確な見当識障害ではなく、閉じこもっていたために環境からの刺激が少なくなり、そうしたことが軽度の見当識能力の低下をもたらしている可能性も否定できなかった。したがって、閉じこもりと認知障害との関連はさらに検討を要するものと考えられた。

E. 結論

閉じこもりの一要因として認知機能低下が考えられるため、閉じこもりの有無と認知機能の低下との関連を、改定長谷川式簡易知能評価スケールを用いて検討した。その結果、認知機能全般や近時記憶と低下と閉じこもりとの間には有意な関連を見出せなかった。しかしながら、時間見当識の低下と閉じこもりとの間には有意な関連を認めた。このことから、認知障害が閉じこもりの一要因となり得る可能性が示唆された。しかしながら重要な認知症の初発症状である近時記憶の低下と閉じこもりとの間に有意な関連が見出せず、今後さらに検討が必要であると考えられた。

F. 研究発表

特になし

G. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

文献

- 1) 加藤伸司・下垣光・小野寺敦志・植田宏樹・老川賢三ほか(1991)：改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)の作成. 老年精神医学雑誌2:1339-1347.
- 2) Nakamura S, Shigeta M, Tsuno N, Niina R, Homma A, Kawamuro Y (2003):

Prevalence and predominance of Alzheimer type dementia in rural Japan. *Psychogeriatrics* 3 (3), 97-103.

- 3) International Psychogeriatric Association (IPA) (2003a): Clinical issues. Specific Symptomatology: psychological. In Behavioral and psychological symptoms of dementia. pp.7-11.
- 4) International Psychogeriatric Association (IPA) (2003b): Clinical issues. Specific Symptomatology: behavioral. In Behavioral and psychological symptoms of dementia. p p.12-15.
- 5) 繁田雅弘 (2004):アルツハイマー型痴呆症候学序論. 東京保健科学学会誌 6(3); 231-237
- 6) Horstl H (2005) : What is Alzheimer's disease. In Dementia 3rd edition. Edited by Burns A and O'Brien J. pp.359-368.

Ⅲ. 資料

荒川区の住民の健康に関するアンケート・2006 年

[対象者各位]

2006 年 7 月

アンケートおよび訪問のお願い

このたび、荒川区と首都大学東京では、高齢者の皆様方の健康状態に合わせた新しい福祉機器等を開発するための基礎資料を得るために、健康に関するアンケートを実施することになりました。区内の 65 歳以上の方を対象に、無作為に抽出した皆様にアンケートをお送りし、健康状態をお尋ねします。さらに、夏以降に出来るだけ多くの皆様のお宅を訪問し、直接お話を伺いたいと考えております。

ご多忙とは存じますが、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

なお、回答はすべて統計的に処理され、個人のプライバシーが外部に漏れることは、決してありませんので、ご安心ください。調査の趣旨をご理解の上、是非ともご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

アンケートや訪問に関する疑問や不明な点につきましては、下記までお問い合わせください。

荒川区長:西川太一郎

首都大学東京健康福祉学部長:繁田 雅弘

【アンケート記入上の注意】

- できるだけ対象者ご本人がご回答ください。
- もし、記入することが困難なときは、ご家族の方に書いてもらってください。
- 各設問の指示をよく読んで、該当する番号に○をつけるか、具体的に記入してください。
- あまり深く考え込まずに、ありのままに答えてください。
- このアンケートは、7月20日までにご記入の上、同封の封筒に入れ、ご返送ください。

【お問い合わせ先】

荒川区産業経済部経営支援課 ●担当：福島・佐藤

電話 (03) 3802-4683 (時間=8:30~17:15)

首都大学東京健康福祉学部作業療法学科 ●担当：藺牟田・橋本

電話 (03) 3819-1211 (代表) (時間=10:00~18:00)

【ご家族の方へ】

▼ご本人が下記の理由で回答できない場合は、番号に○をつけ、そのまま同封の封筒にてご返送ください。

1. 入院中
2. 入所中
3. 長期不在
4. 転出
5. 死亡
6. その他()

【回答の仕方】各設問の指示をよくお読みになり、該当する番号(1. 2. 3. 4 など)に○をつけるか、()内に、具体的に記入してください。

■問1. あなたについて教えてください。

- | | | |
|------|-------|-------|
| ●性別は | 1. 男性 | 2. 女性 |
| ●年齢は | 満()歳 | |

■問2. あなたの世帯に同居している方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------|------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 子供(子供の配偶者を含む) |
| 3. 孫 | 4. その他() |

■問3. あなたは介護保険制度の要介護認定を受けたことがありますか。(どちらかに○)

- | |
|--------|
| 1. な い |
| 2. あ る |

▼判定結果を教えてください。(1つにだけ○)

- | | | |
|------------|---------|---------|
| 1. 要支援 | 2. 要介護1 | 3. 要介護2 |
| 4. 要介護3 | 5. 要介護4 | 6. 要介護5 |
| 7. 該当しなかった | | |

■問4. あなたの住まいについて伺います。(どちらかに○)

- | | |
|--------|-------|
| 1. 持ち家 | 2. 借家 |
|--------|-------|

■問5. あなたの住まいの種類について伺います。(1つにだけ○)

- | | | | |
|-------------|---------|-----------|-----------|
| 1. 一戸建て | 2. アパート | 3. マンション | 4. 公団公社住宅 |
| 5. 公営(都営)住宅 | 6. 社宅・寮 | 7. その他() | |

※必ずご本人がお答えください

■問6. あなたは次の動作をする時、どの位自信をもってできますか。(1つにだけ○)

	▼自信が	▼自信が
1. 入浴する	1. 全くない	2. あまりない 3. まあある 4. 大変ある
2. 家の周りを歩く	1. 全くない	2. あまりない 3. まあある 4. 大変ある
3. 電話にすぐ対応する	1. 全くない	2. あまりない 3. まあある 4. 大変ある
4. 服を着たり脱いだりする	1. 全くない	2. あまりない 3. まあある 4. 大変ある
5. 簡単な掃除をする	1. 全くない	2. あまりない 3. まあある 4. 大変ある
6. 簡単な買い物をする	1. 全くない	2. あまりない 3. まあある 4. 大変ある

※必ずご本人がお答えください

■問7. あなたは普段、ご自分で健康だと思われますか。(1つにだけ○)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 非常に健康だと思う | 2. まあ健康なほうだと思う |
| 3. あまり健康ではない | 4. 健康ではない |

■問8. 最近1ヶ月のことについて伺います。あなたは、どれくらいの回数で外出しますか。(隣近所に行く、買い物、通院などを含みます。)(1つにだけ○)

1. 週に1回以上は、外出する。→よく行く場所を教えてください。 (よく行く場所：)
2. 月に1～3回は、外出する。→よく行く場所を教えてください。 (よく行く場所：)
3. ほとんど、または、全く外出しない。

※問8で、2・3と回答した方のみ下記の間8-1. 2についてお答えください。

▼問8-1. あなたが、現在のような生活になったのは、いつ頃からですか。

1. 昭和	2. 平成	(年 月)
-------	-------	---------

▼問8-2. あなたが、外出をあまりしないのはどうしてですか。(1つにだけ○)

1. 仕事(自営・家事・畑など)がある	2. 留守番のため
3. 病気や身体が不自由だから	4. 配偶者の世話のため
5. 孫の世話のため	6. 移動手段がない
7. その他 ()	

■問9. あなたは、普段どういう目的で外出をしますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 病院・診療所などへの通院(歯医者などを含む)	
2. デイサービス・デイケアに通う	
3. 孫の世話や家族の外出の付き添い	
4. 食料品や日用品の買い物	5. 町内会活動への参加
6. 友人宅や親戚宅の訪問	7. 運動や趣味活動への参加
8. お墓参り	9. お寺や神社へのお参り
10. 観劇・映画・食事など	11. 散歩
12. その他 ()	

■問10. あなたが、普段外出するときに使っている交通手段や道具について伺います。(あてはまるものすべてに○)

1. 電車(都電・地下鉄・JRなど)	2. バス	3. タクシー
4. 自動車(家族が運転)	5. 自動車(自分で運転)	
6. 自転車	7. 電動三輪車	
8. 杖	9. 道具を使用せず徒歩のみ	
10. シルバーカー	11. 自立用車いす	
12. 介助用車いす	13. 電動車いす	
14. その他 ()		

■問11. あなたの現在の体力について伺います。

「1. はい」、「2. いいえ」のいずれかの番号に○をつけてください。

1. 床から立ち上がることができる	1. はい	2. いいえ
2. 椅子から立ち上がることができる	1. はい	2. いいえ
3. 椅子から立ち上がる時、手の支えなしで立ち上がる	1. はい	2. いいえ
4. 背もたれに寄りかからず、椅子に座り続けることができる	1. はい	2. いいえ
5. ものにつかまらないうち、立ち続けることができる	1. はい	2. いいえ
6. ものにつかまらないうち、つま先立ちができる	1. はい	2. いいえ
7. ものにつかまらないうち、家の中を歩くことができる	1. はい	2. いいえ
8. ものにつかまらないうち、敷居の段差（5cm程度）を通ることができる	1. はい	2. いいえ
9. ものや杖につかまらないうち、外を歩くことができる	1. はい	2. いいえ
10. 階段を上ったり、下りたりできる	1. はい	2. いいえ
11. 階段を上る時に息切れしない	1. はい	2. いいえ
12. 飛び上がることができる	1. はい	2. いいえ
13. 走ることができる	1. はい	2. いいえ
14. 歩いている他人を早足で追い越すことができる	1. はい	2. いいえ
15. 30分以上歩き続けることができる	1. はい	2. いいえ
16. 水がいっぱい入ったバケツを持ち上げることができる	1. はい	2. いいえ
17. 米の袋 10 キログラムを持ち上げることができる	1. はい	2. いいえ
18. 倒れた自転車を起こすことができる	1. はい	2. いいえ
19. 自転車に乗ることができる	1. はい	2. いいえ
20. ジャムなどの広口びんのふたを開けることができる	1. はい	2. いいえ
21. 立った位置からひざを曲げずに手が床にとどく	1. はい	2. いいえ
22. くつ下・ズボン・スカートを立てたまま支えなしではける	1. はい	2. いいえ

■問12. あなたは現在、からだに痛みを感じることはありませんか。（どちらかに○）

- | |
|---------------|
| 1. な い |
| 2. <u>あ る</u> |

→ 痛みを感じる部分にいくつでも○をつけてください。

- | | | | |
|------|------------|-------|-------|
| 1. 腰 | 2. 股(こ)関節 | 3. ひざ | 4. ひじ |
| 5. 肩 | 6. その他 () | | |

■問13. あなたはこの1年間に転んだことがありますか。(どちらかに○)

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1. な い | |
| 2. あ る | → (転んだ回数 回) |

■問14. 転んだ最大の理由は何だと思えますか。
最も大きな原因だと思理由を1つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|---------|--------------|
| 1. つまずいた | 2. すべった | 3. 人や物にぶつかった |
| 4. 足を踏み外した、転落した | | 5. 身体がふらついた |
| 6. めまいがした、気が遠くなった | | 7. 気を失った |
| 8. その他 (| |) |

■問15. あなたが普段過ごしている部屋の様子について伺います。
以下の質問のそれぞれについて、お答えください。

(1～5はどちらかに○)

- | | | | |
|----------------------------|------------|-------------------|--------|
| 1. 昼間主に過ごす部屋と、夜寝る部屋は同じですか | 1. はい | 2. いいえ | |
| 2. 寝室と玄関は同じ階にありますか | 1. はい | 2. いいえ | |
| 3. 昼間主に過ごす部屋は | 1. 和室 | 2. 洋室 | |
| 4. 寝室は | 1. 和室 | 2. 洋室 | |
| 5. どのような寝具を使用していますか | 1. 床に布団を敷く | 2. ベッドを使用 | |
| 6. 普段、長く座る場所は
(いくつでも○) | 1. 床に座布団敷き | 2. 座椅子 (和室用の低い椅子) | |
| | 3. 椅子 | 4. ソファー | |
| 7. 食事をする時に座る場所は
(1つだけ○) | 1. 床に座布団敷き | 2. 座椅子 (和室用の低い椅子) | |
| | 3. 椅子 | 4. ソファー | |
| 8. 暖房に使う器具は
(いくつでも○) | 1. ストーブ | 2. エアコン | 3. こたつ |
| | 4. なし | 5. その他(|) |
| 9. 冷房に使う器具は
(いくつでも○) | 1. 扇風機 | 2. エアコン | 3. なし |
| | 4. その他(| |) |

■問16. あなたのお宅の玄関まわりの様子について伺います。(どちらかに○)

- | | | | |
|----------------------------------|-------|-----------|-------|
| 1. 玄関の段差(上がりがまち)は高いと思う | 1. はい | 2. いいえ | |
| 2. 玄関の段差(上がりがまち)は手の平の長さ(約15cm)より | | | |
| | 1. 高い | 2. だいたい同じ | 3. 低い |
| 3. 玄関の外に段差(だんさ)がある | 1. はい | 2. いいえ | |
| 4. 玄関の外に階段(かいだん)がある | 1. はい | 2. いいえ | |

■問17. あなたが普段使っている自転車や杖、車いすなどの器具や用具で、困っていることや、不満、改善したい点などありましたら、具体的に教えてください。また、このような器具や用具があったらいいなと思うものがありましたら、具体的にお書きください。

▼最後になりましたが、このアンケートや荒川区、首都大学東京健康福祉学部に対して、何かご意見・ご要望などがございましたら、お聞かせください。

●お願い●

今回の内容で、記入漏れがありました時には、後ほど、連絡させていただきますので、さしつかえなければ、下記にお名前・電話番号をご記入ください。

ふりがな
お名前

電話番号

—

また、今夏より、福祉機器等の開発に関して、さらに詳細なご意見を伺うため、首都大学東京の学生などが、住民の皆様から直接お話しを伺うことを予定しております。その際には、お宅を訪問させていただいてよろしいでしょうか。

下記のいずれか1つに○をつけてください。なお、1. 2. とご回答くださった方は、忘れずに、上記にお名前と電話番号をご記入ください。後日、ご連絡させていただきます。

1. 訪問してよい 2. 今はわからないので後日電話してほしい 3. 訪問は困る

- アンケートは以上です。恐れ入りますが、記入漏れがないか今一度、ご確認をお願い致します。
■ご協力いただきまして、ありがとうございました。

※以下は、記入しなくて結構です。

【調査状況】(SA)

1. 全項目記入 2. 一部未記入 3. 調査不能：拒否
4. 調査不能：入院中・入所中・長期不在・転出(月 日)・死亡
5. その他 ()

健康や福祉機器に関する訪問アンケート

(2006年9月)

受付番号：_____

実施日	月	日
開始時間	時	分
終了時間	時	分
実施者	点検者	
回答者	<input type="checkbox"/> 本人回答 <input type="checkbox"/> 代理回答 <input type="checkbox"/> 本人+代理回答	

問1 では早速ですが、あなたは現在、幸せだと思いますか。※本人回答のみ

1. はい 2. まあまあと思う 3. どちらでもない 4. 思わない

《これからお体のことについてお聞きします》

問2 あなたは、今までに次の病気にかかったことがありますか。かかったことがある場合は、その治療経過についてもお答え下さい。

問2-1 脳血管疾患

1. ない 2. ある ⇨ 1. 治療中 2. 治療済み 3. 未治療・治療中断

問2-2 狭心症・心筋梗塞

1. ない 2. ある ⇨ 1. 治療中 2. 治療済み 3. 未治療・治療中断

問3 あなたの耳や目、ふだんの生活についてお伺いします。当てはまるものを教えてください。

問3-1 耳は普通に聞こえますか（補聴器を使った状態がかまいません）

1. 普通（会話やテレビに不自由しない）
2. 大きい声でないと聞こえない
3. ほとんど聞こえない

問3-2 目は普通に見えますか（眼鏡を使った状態がかまいません）

1. 普通（本が読める）
2. 1mくらい離れていて、顔を見てその人がわかる
3. ほとんど見えない

問3-3 トイレに行くのに間に合わなくて、失敗することがありますか

1. 普通（トイレ、もしくは便器を使い、もらすことはない）
2. ときどきもらすことがある（下着を替える必要がある）
3. 常時おむつを使用

<では、普段の外出についてお尋ねします。ここでいう外出とは、近所に買い物に出かけたり、通院したり、近所のお宅を訪問したり、散歩や仕事に出かけたりすることをさします。>

(問4～6は閉じこもり対象者用：それ以外の対象者には質問をせずに、非該当に○をつける)

問4 あなたは、今以上に外出の回数を増やしたいと思いますか。※本人回答のみ

1. はい 2. いいえ 3. 非該当

問5 65歳以上の方にとって、できるだけ外出することが健康に良いといわれていますが、あなたはそのことを知っていましたか。※本人回答のみ

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 非該当

問6 それでは、あなたは今後、週に1回以上、外出できると思いますか。※本人回答のみ

- | | | |
|----------------|--------|-----------------|
| 1. 必ずできると思う | -----> | 問6-1のみ尋ねる |
| 2. たぶん、できると思う | -----> | 問6-1のみ尋ねる |
| 3. どちらともいえない | -----> | |
| 4. たぶん、できないと思う | -----> | 問6-1, 2, 3を尋ねる |
| 5. 絶対にできないと思う | -----> | |
| 6. 非該当 | -----> | 問6-2のみ非該当に○をつける |

問6-1. そのように思う理由を教えてください。※本人回答のみ

(具体的に)

問6-2. (問6の選択肢3～5までを選択した方にお尋ねします)。

あなたは、以前からどちらかと言えば、外出をするよりも、家で過ごす方が好きでしたか。※本人回答のみ

1. はい 2. いいえ 3. 非該当

問6-3. 3～5までを選択した方にお尋ねします。

どういうきっかけや助けがあれば、あなたは週1回以上の外出ができるようになると思いますか。※本人回答のみ

(具体的に)

(問7～8は自立高齢者用：それ以外の対象者には質問をせずに、非該当に○をつける)

問7 あなたは、ここ半年の間に、外出をしたくないと思うときがありましたか？※本人回答のみ

1. はい 2. いいえ 3. 非該当

問7-1. はいと答えた方にお尋ねします。どんなときに外出したくないと思いましたが（天候に関することが出てきたら、それ以外もお聞きする）。※本人回答のみ

--

問7-2. 65歳以上の方にとって、できるだけ外出することが健康に良いといわれていますが、あなたはそのことを知っていましたか。※本人回答のみ

1. はい 2. いいえ 3. 非該当

問8 それでは、あなたは今後も、週に1回以上の外出ができると思いますか。※本人回答のみ

1. 必ずできると思う 2. たぶん、できると思う 3. どちらともいえない
4. たぶん、できないと思う 5. 絶対にできないと思う 6. 非該当

問8-1. そのように思う理由を具体的に教えてください。※本人回答のみ

(具体的に)

--

《次に役割活動についてお聞きします》

問9 (自立高齢者用) 地域の団体・組織・会との関わりについてお伺いします。あなたは次の団体・組織・会と、どのような関わりをしていますか。参加している団体・組織・会の番号をすべてお答えください。また、参加しているものについては、活動の有無もお答え下さい。

	参 加		活 動	
1. 町内会	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
2. 老人会・高齢者団体	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
3. 婦人会・女性団体	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
4. 民生委員や福祉関係団体・組織	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
5. 保健や食生活改善関係の推進組織	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
6. スポーツ・体育関係指導者団体	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
7. 趣味やレクリエーション関係の会	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
8. 地域の文化や祭りにかかわる組織	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
9. 商工会・法人会などの団体	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
10. ボランティア関係団体・組織	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
11. ころばん体操	1. 無	2. 有	1. している	2. していない
12. その他 (具体的に：)	1. 無	2. 有	1. している	2. していない

問10 家の中ではどのような役割や仕事をお持ちですか。該当するものすべてお答え下さい。

1. 食事のしたく	2. 洗濯	3. 掃除	4. 家計や財産の管理	5. 孫の世話や保育
6. 親や配偶者の介護	7. ペット・家畜の世話	8. 神棚・仏壇の世話	9. 庭・花壇・菜園の世話	
10. ゴミ捨て・ゴミ処理	11. 留守番・電話番	12. 家業の手伝い	13. 大工仕事や家の修繕	
14. 漬物・乾物・味噌づくりなど	15. その他(具体的に→)			

《それでは、人とのお付き合いについてお聞きします。ご近所の方、別居している親族の方、ご友人についてそれぞれお聞きします。まずご近所の方とのお付き合いについてお聞かせください》

問11 ご近所づきあいはありますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問12 ご近所の方とのおつきあい(交流関係)について、どのくらい満足されていますか。 ※本人回答のみ

1. とても満足	2. やや満足	3. やや不満足	4. とても不満足
----------	---------	----------	-----------